

第3次上山市地域福祉活動計画中間評価報告書

(2018年度～2020年度)

社会福祉法人 上山市社会福祉協議会

はじめに

上山市社会福祉協議会では、2018年度から2022年度までの5年間を計画期間として定めた、第3次上山市地域福祉活動計画を2018年3月に策定しました。

第3次上山市地域福祉活動計画では、「共に支えあい みんなでつながる 福祉のまち上山」を基本理念に、また、その実現に向け「ささえあう」、「はぐくむ」、「つながる」を基本目標に掲げ、様々な取り組みを進めてきました。

中間評価を行うにあたっては、当初実行委員会を設置し、検討を重ね、とりまとめを行うこととしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、担当職員による評価となりました。

この活動計画は1年ごとに数値を掲げ、目標達成のために計画の実行、確認、評価を行い、新たな課題にも柔軟に対応するものとしています。また、中間年にあたる2020年度に、前期の取り組みの成果や計画策定後の環境変化を踏まえ、中間評価を実施して今後の取り組みに繋げていくこととしております。

今年度で活動計画が策定されてから3年が経過するとともに、「平成」から「令和」へと時代の転換を迎え、社会情勢や福祉を取り巻く環境等も大きく変化しました。本市においても人口構造や住民意識の変化等を受け、地域福祉に関連する取り組み方も多様化しています。また、新型コロナウイルス感染症による感染拡大の防止等から、中止あるいは規模を縮小せざるを得ない事業も複数あり、活動計画に掲げた数値目標達成には厳しいものもありました。これについては、今後、残りの期間において、改善工夫、見直しを行い、数値目標を目指すとともに、次期計画に向けて反映できるよう取り組んでまいります。

今後も市民の皆さんやボランティア、関係機関・団体、行政等の参加のもと、連携・協働した地域福祉活動を推進するとともに、目標達成のために努力してまいります。

おわりに、第3次上山市地域福祉活動計画中間評価において、東北福祉大学都築光一教授、山形県社会福祉協議会より講評を賜り、報告書を作成できたことに対しまして、衷心より感謝申し上げます。

令和3年9月

社会福祉法人上山市社会福祉協議会
会 長 横 戸 長兵衛

目 次

1. 第3次上山市地域福祉活動計画 計画の体系（図）・・・・・・・・・・ 1
2. 第3次上山市地域福祉活動計画中間評価の概要・・・・・・・・・・ 2
3. 第3次上山市地域福祉活動計画 前期評価一覧・・・・・・・・・・ 4
4. 第3次上山市地域福祉活動計画 中間評価表・・・・・・・・・・ 5
5. 第3次上山市地域福祉活動計画中間評価の講評・・・・・・・・・・ 29

計画の体系 (図)

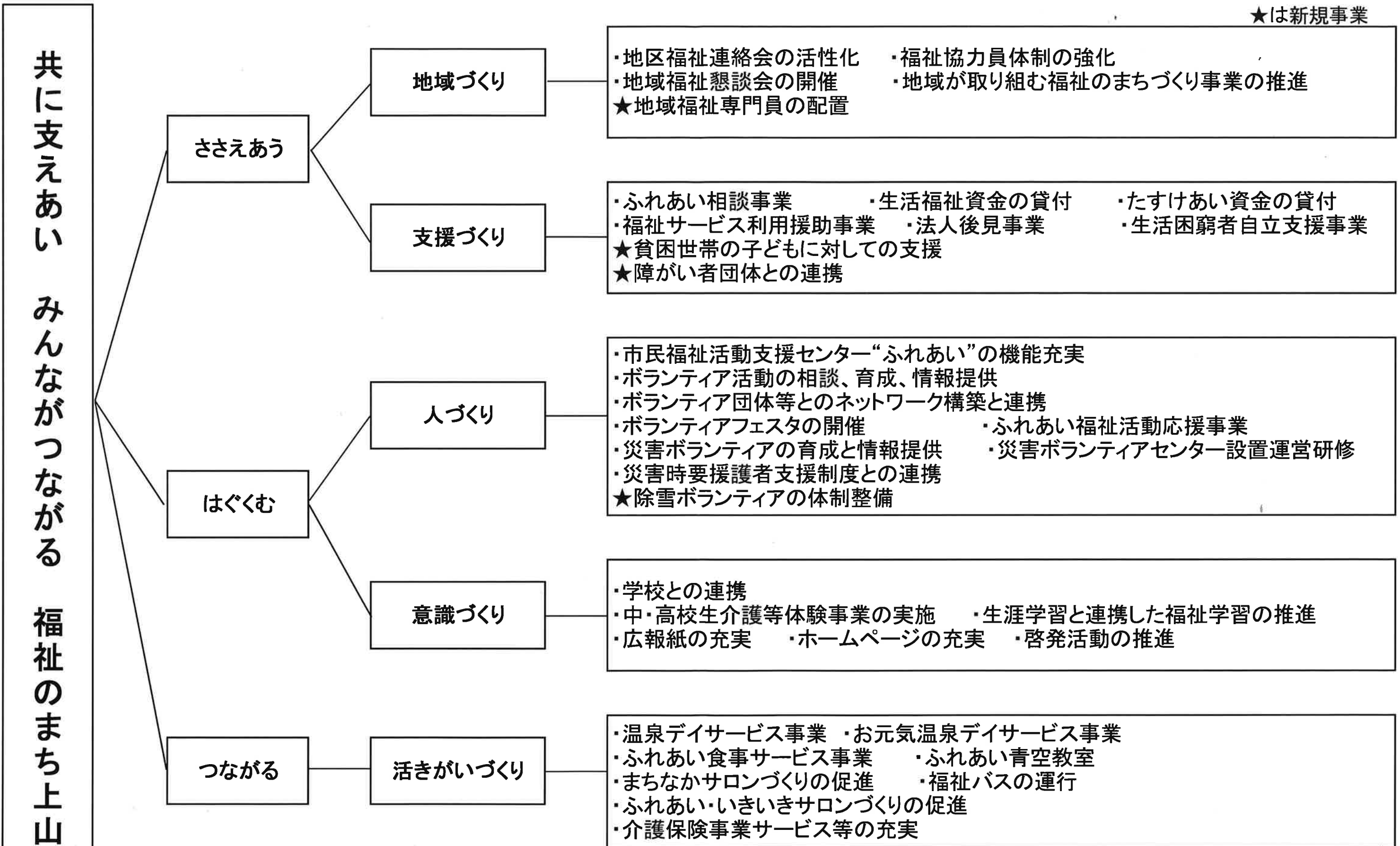
【基本理念】

【基本目標】

【基本計画】

【実施項目】

★は新規事業



第3次上山市地域福祉活動計画中間評価の概要

2021年度（令和3年度）は、2018年度（平成30年度）から2020年度（令和2年度）度までの5年間について計画した、第3次上山市地域福祉活動計画の中間年が終了したことから、その計画内容について中間評価を行い、必要に応じ、改善・工夫、見直しを検討しました。

1 実施状況の算定方法

中間評価は、第3次上山市地域福祉活動計画の実施項目に倣って、具体的取組みとその実施項目（36項目）毎に実施状況等を確認し、2018年度（平成30年度）から2020年度（令和2年度）の3か年間の目標値と事業内容、実績を比較しました。また、目標値に達成していることや、内容の充実度、満足度等を考慮して、担当職員がそれぞれの立場や視点に基づき、取りまとめた上で事務局において4段階の自己評価を行いました。

なお、新型コロナウイルス感染症防止に伴い、2019年度（令和元年度）と2020年度（令和2年度）の事業の一部を中止または変更して実施したことから、2018年度（平成30年度）から2020年度（令和2年度）の3か年間の評価について加味することとしました。

（1）目標達成度

A：達成

具体的取組みを進めるため事業等を実施し、目標をほぼ達成している。

B：概ね達成

具体的取組みを進めるための事業等を実施した、または、実施したものの、まだ充分でなく、目標を概ね達成しているが、課題を残している。

C：一部達成

具体的取組みを進めるための事業等を実施した、または、実施したものの、不十分であり、目標を一部しか達成していない または、検討段階等であり、課題の解決に至っていない。

D：未着手

中間評価時点では、検討や着手に至っていない。

（2）今後の対応

継続：活動計画策定時に考えた具体的内容で続ける。

改善・工夫：改善点を抽出し、新たな方法や手段を考え取り組む。

見直し：策定時に考えた具体的内容をもう一度改めて見る。必要時内容を修正する。

2 実施項目ごとの中間評価

事務局において実施状況等について、「これまでに実施した取組」や「課題」の確認と検討を行い、評価を行った結果は、別紙「中間評価表」のとおりです。

3 中間評価の結果（まとめ）

評価結果は以下のとおりです。

A：達成

36項目のうち、11項目で30.6%

B：概ね達成

36項目のうち、13項目で36.1%

C：一部達成

36項目のうち、11項目で30.6%

D：未着手

36項目のうち、1項目で2.7%

計画中、現時点において項目の概ね3割を実施（「達成」）しました。これは、上山市社協のみならず、地区の方々を中心に、関係機関・団体などとの協働の結果によるものと理解しております。なお、「概ね達成（B）」、「一部達成（C）」、「未着手（D）」の項目については、本計画残期間をもって、引き続き、検討・事業実施してまいります。

4 中間評価の公表

・報告と意見聴取

本評価はあくまで上山市社協による自己評価です。この結果について、上山市社協ホームページ等で広く公表するとともに、地区の懇談会等の会議などを通じて地域及び地域住民の皆様への報告を行います。それに合わせ、本評価への意見等を聴取することとしており、そこで頂いた意見等については、計画期間中の各年度の事業計画に反映するとともに、上山市社協の事業実施の参考とします。

※「年号の表記について」

なお、活動計画内の元号については、平成31年5月に変更（改元）が予定されていたため、本計画の中間評価時点では新年号が決まっていないことから、西暦での表記としました。

なお、西暦との対応関係は以下の通りです。

2018年度：平成30年度

2019年度：令和元年度

2020年度：令和2年度

2021年度：令和3年度

第3次上山市地域福祉活動計画 前期評価一覧(2018年～2020年)

基本目標1 ささえあう

基本計画(1)地域づくり

事業名	目標達成度	今後の対応
地区福祉連絡会の活性化	C	改善・工夫
福祉協力員体制の強化	B	改善・工夫
地域福祉懇談会の開催	B	改善・工夫
地域が取り組む福祉のまちづくり事業の推進	A	継続
★地域福祉専門員の配置	A	継続

基本計画(2)支援づくり

事業名	目標達成度	今後の対応
ふれあい相談事業	B	継続
生活福祉資金の貸付	A	継続
たすけあい資金の貸付	C	継続
福祉サービス利用援助事業	B	継続
法人後見事業	A	継続
生活困窮者自立支援事業	B	継続
★貧困世帯の子どもに対する支援	A	継続
★障がい者団体との連携	A	継続

基本目標2 はぐくむ

基本計画(1)人づくり

事業名	目標達成度	今後の対応
市民福祉活動支援センター“ふれあい”の機能充実	C	改善・工夫
ボランティア活動の相談、育成、情報提供	C	継続
ボランティア団体等とのネットワーク構築と連携	C	見直し
ボランティアフェスタの開催	A	改善・工夫
ふれあい福祉活動応援事業	C	継続
災害ボランティアの育成と情報提供	B	継続
災害ボランティアセンター設置運営研修	B	継続
災害時要援護者支援制度との連携	D	見直し
★除雪ボランティアの体制整備	B	継続

基本計画(2)意識づくり

事業名	目標達成度	今後の対応
学校との連携	C	継続
中・高校生介護等体験事業の実施	B	継続
生涯学習と連携した福祉学習の推進	C	継続
広報紙の充実	A	継続
ホームページの充実	B	継続
啓発活動の推進	A	継続

基本目標3 つながる

基本計画(1)生きがいづくり

事業名	目標達成度	今後の対応
温泉デイサービス事業	B	継続
お元気温泉デイサービス事業	B	改善・工夫
ふれあい食事サービス事業	B	継続
ふれあい青空教室	C	改善・工夫
まちなかサロンづくりの促進	C	継続
福祉バスの運行	C	継続
ふれあい・いきいきサロンづくりの促進	A	継続
介護保険事業サービス等の充実	A	継続

第3次上山市地域福祉活動計画 中間評価表（2018年～2020年）

<目標達成度>

達成…A 概ね達成…B 一部達成…C 未達成…D

基本目標1 ささえあう

基本計画（1）地域づくり

方向性 住み慣れた地域で、安心して安全に暮らしていくためには、近隣同士の助け合いが不可欠です。地域住民が主体となり、共に支え合う地域づくりを積極的に推進する必要があります。

実施計画（各年度の数値目標） ★は新規事業

実施項目	2018	2019	2020	2021	2022	実施状況
	目標					
地区福祉連絡会の活性化 住民主体の地域福祉活動の充実と福祉ネットワークづくりを推進するため、市内全地区に設置されている地区福祉連絡会の活性化を図ります。 地区の会議等で福祉協力員や役員等から、地区内の諸問題について提起いただき、それぞれの地区で抱えている福祉課題に住民が気づき、主体的に解決するため、地域福祉専門員が地区と一体となり、活動を支援します。	⑤ 福祉 研修会 32地区	⑤ 福祉 研修会 34地区	⑤ 福祉 研修会 36地区	⑤ 福祉 研修会 38地区	⑤ 福祉 研修会 40地区	各地区において、行事の見直し等が行われ、福祉研究会・健康教室等の開催をとりやめた地区もあり、また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、地区内の事業における、研修会や地区民同士の交流事業等は実施できていない。 しかし、高齢者等への友愛訪問や除雪支援・地区内の環境整備等の奉仕活動は増加し、目標を達成している。
	実績					

<p><主な活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 福祉協力員の設置 ② 高齢者等への友愛訪問活動 ③ ふれあい・いきいきサロンの設置と運営 ④ ふれあい会食会及び配食サービスの実施 ⑤ 福祉研修会・健康教室等の開催 ⑥ 世代間の交流を図る事業の推進 ⑦ 各種団体との連携や行事への参加 ⑧ 地区民による非常時の緊急援護体制の整備 ⑨ 地区内の奉仕活動（除雪、清掃活動等） <p>特に各地区において、⑤福祉研修会・健康教室等の開催と⑨地区内の奉仕活動（除雪、清掃活動等）の事業を積極的に推進できるよう支援するほか、福祉系の大学の協力を得て地域診断を行い、現状を分析して、生活（福祉）課題に対応していきます。</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 1310 375 1422">⑤ 福祉研修会 25地区</td> <td data-bbox="145 1198 375 1310">⑤ 福祉研修会 22地区</td> <td data-bbox="145 1086 375 1198">⑤ 福祉研修会 18地区</td> <td colspan="3" data-bbox="145 840 375 1086" rowspan="2" style="text-align: center;"> 目標達成度 今後の対応 </td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="375 1086 622 1422" style="text-align: center;"> 目標 </td> <td data-bbox="375 974 622 1086">⑨ 奉仕活動 35地区</td> <td data-bbox="375 862 622 974">⑨ 奉仕活動 40地区</td> <td data-bbox="375 750 622 862">⑨ 奉仕活動 45地区</td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="622 1086 986 1422" style="text-align: center;"> 実績 </td> <td data-bbox="622 974 986 1086">⑨ 奉仕活動 34地区</td> <td data-bbox="622 862 986 974">⑨ 奉仕活動 34地区</td> <td data-bbox="622 750 986 862">⑨ 奉仕活動 66地区</td> </tr> </table>	⑤ 福祉研修会 25地区	⑤ 福祉研修会 22地区	⑤ 福祉研修会 18地区	目標達成度 今後の対応			目標			⑨ 奉仕活動 35地区	⑨ 奉仕活動 40地区	⑨ 奉仕活動 45地区	実績			⑨ 奉仕活動 34地区	⑨ 奉仕活動 34地区	⑨ 奉仕活動 66地区	C 改善・工夫
⑤ 福祉研修会 25地区	⑤ 福祉研修会 22地区	⑤ 福祉研修会 18地区	目標達成度 今後の対応																	
目標						⑨ 奉仕活動 35地区	⑨ 奉仕活動 40地区	⑨ 奉仕活動 45地区												
実績			⑨ 奉仕活動 34地区	⑨ 奉仕活動 34地区	⑨ 奉仕活動 66地区															
<p>福祉協力員体制の強化</p> <p>隣組長や地区役員等が福祉協力員となって、隣組単位で福祉活動を推進できる体制を強化します。</p> <p>また、近隣者による見守りや支え合い活動を構築するにあたり、福祉協力員への委嘱状交付や研修会の開催、パンフレットの作成、各地区に向いて設置目的や活動内容の説明等を行い、福祉協力員の意義と役割を明確化し、意識の高揚と啓発活動を推進します。</p>	<table border="1"> <tr> <td colspan="3" data-bbox="986 1310 1034 1422" style="text-align: center;"> 目標 </td> <td colspan="3" data-bbox="986 840 1420 1422" rowspan="2" style="text-align: center;"> 実施状況 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1034 1310 1125 1422">地区への説明 8地区</td> <td data-bbox="1034 1198 1125 1310">地区への説明 10地区</td> <td data-bbox="1034 1086 1125 1198">地区への説明 12地区</td> <td data-bbox="1034 974 1125 1086">地区への説明 14地区</td> <td data-bbox="1034 862 1125 974">地区への説明 16地区</td> <td data-bbox="1034 750 1125 862">地区への説明</td> </tr> </table> <p>福祉協力員の取り組みは、全地区での実施が定着しているが、福祉協力員への委嘱状交付希望地区は2割程度に留まっている。また、福祉協力員への活動の啓発活動としての研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮して、今後の開催の形態を検討することとする。</p> <p>各地区に向いて設置目的や活動内容の説明等は、啓発活動として積極的に実施できたが、今後は新型コロナウイルス感染症を考慮、チラシなどを活用しての啓発活</p>	目標			実施状況			地区への説明 8地区	地区への説明 10地区	地区への説明 12地区	地区への説明 14地区	地区への説明 16地区	地区への説明							
目標			実施状況																	
地区への説明 8地区	地区への説明 10地区	地区への説明 12地区				地区への説明 14地区	地区への説明 16地区	地区への説明												

動を推進していく。										今後の対応		
				実績		目標達成度				今後の対応		
地区へ の説明 13地区	地区へ の説明 12地区	地区へ の説明 7地区	10地区 で開催		10地区 で開催		10地区 で開催		B		改善・工夫	
地区への説明												
地域福祉懇談会の開催 市内10地区公民館において、地区会長、民生委員・児童委員、主任児童委員、公民館関係者と行政及び社協が協議する懇談会を毎年継続して開催し、各地区での活動状況や福祉課題について情報交換を行い、課題解決に向けた取り組みについて検討します。												
				実績		目標		実施状況		今後の対応		
10地区 で開催	10地区 で開催	10地区 で開催	10地区 で開催	10地区 で開催	10地区 で開催	市内10地区内ごと、地区会長等との懇談を持つこと で、地区ごとの課題について情報交換をすることができ た。しかし、行政等への要望が多く、課題解決の取り組 みについてまでの検討が至っていない。 新型コロナウイルス感染症拡大のため、これまでの開 催方法を改め、地区公民館主催の懇談会などと抱合せて の開催などを検討していく。		B		改善・工夫		
				実績		目標達成度				今後の対応		
10地区 で開催	10地区 で開催	実施 なし	10地区 で開催		10地区 で開催		B		改善・工夫			
地区への説明												

<p>地域が取り組み福祉のまちづくり事業の推進</p> <p>地区公民館事業として独自に取り組み福祉のまちづくり事業を支援するとともに、市内全地区公民館で実施するよう努めます。</p> <p>住民同士の交流を図り、地域福祉への理解と関心を高め、事業への参加促進を行います。</p>	<p>目標</p> <p>10地区で開催</p> <p>10地区で開催</p> <p>10地区で開催</p> <p>10地区で開催</p>				<p>実施状況</p> <p>各公民館として独自の取り組みに合わせて、福祉のまちづくり事業の実施ができた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各公民館としても開催方法を検討するとともに、地区公民館で取り組みができるよう、積極的に周知していく。</p>		
	<p>実績</p> <p>10地区で開催</p> <p>10地区で開催</p> <p>10地区で開催</p> <p>6地区で開催</p>				<p>目標達成度</p> <p>A</p>		<p>今後の対応</p> <p>継続</p>
<p>★地域福祉専門員の配置</p> <p>地域福祉専門員1名を配置して、各地区の会議や福祉事業等に地域福祉専門員が積極的に参画して行きます。</p> <p>アウトリーチの徹底を図り、地域住民、民生委員・児童委員等から支援を必要とする人の情報収集と、それを支える人との調整を図り、その仕組みづくりを行うとともに、日常生活支援のための体制を整備して地域福祉活動を支援していきます。</p>	<p>目標</p> <p>市内全地区</p> <p>市内全地区</p> <p>市内全地区</p> <p>市内全地区</p>				<p>実施状況</p> <p>地域福祉専門員1名配置後、2020年度に2名へと増やし、各地区の会議や福祉事業等へ参画する機会が増えた。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、開催が自粛されることが多かったが、開催されるサロン活動や事業などには積極的に参加することができている。今後、ゴミ出しや除雪等の日常生活支援のための体制を整備できるよう取り組んでいく。</p>		
	<p>実績</p> <p>市内全地区</p> <p>市内全地区</p> <p>市内全地区</p> <p>市内全地区</p>				<p>目標達成度</p> <p>A</p>		<p>今後の対応</p> <p>継続</p>

基本目標 1 ささえあう

基本計画 (2) 支援づくり

方向性 市民が生涯にわたり、相談できる体制を整えるとともに、相談者に寄り添った支援ができるよう、相談窓口の充実に努めてまいります。

また、新たな生活（福祉）課題も増加する中で、各種団体等との連携を図り、課題に柔軟に対応し、各種サービスの充実に努めます。

実施計画（各年度の数値目標） ★は新規事業

実施項目	実施状況				
	2018	2019	2020	2021	2022
ふれあい相談事業 ふれあい相談所を毎週木曜日に開設し、誰もが気軽に心配ごとや困りごとを相談できる窓口として、必要な情報の提供や専門機関への橋渡しなど、機能充実に努めます。 また、弁護士による無料法律相談を毎月1回実施し、専門的な法律相談等に対応します。	件数 140件	件数 140件	件数 150件	件数 150件	件数 150件
	<p>2019年度までは、相談件数は目標値を上回ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、来談者が減少した。相談の対象は、高齢者に関するものが多い。 また、無料法律相談の時間を20分から30分に時間を増やしたが、相談件数は少なくなったが、相談者に寄り添った支援ができるようになった。</p>				
	実績		目標		
	件数 167件	件数 144件	件数 81件	B	
	件数 81件		今後の対応		
			継続		

実施状況		目標				実施状況	目標達成度		今後の対応
生活福祉資金の貸付 低所得者世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等に対し、生活の安定と自立支援を図るため、無利子または低利子で必要な資金の貸付けを行います。 実施主体の県社協及び民生委員と連携し、資金借受人の生活再建を行うとともに、進学等を支援するため教育資金の広報活動等に努め、活用を促します。		件数 7件	件数 7件	件数 8件	件数 8件		件数 8件	件数 8件	
たすけあい資金の貸付 緊急かつ一時的に生活資金に困窮する低所得者等に対し、無利子で60,000円を限度として資金の貸付けを行い、利用の状況に応じて、市及び民生委員と連携し、生活安定と自立促進に必要な相談支援を行います。 資金貸付者には随時連絡を取り、督促と生活支援を行い、償還を促します。		貸付 7件	貸付 7件	件数 7件	件数 7件	件数 8件	件数 8件	件数 8件	継続
		実績				実績		今後の対応	
		件数 6件	件数 14件	件数 102件	件数 102件		件数 9件		C
		実績				実績		今後の対応	
		貸付 1件	貸付 1件	件数 9件	件数 9件		件数 9件		継続

福祉サービス利用援助事業		実施状況																				
福祉サービス利用援助事業 認知症等の高齢者や障がいを抱えた方、判断能力の低下等により、日常生活に不安がある方等の増加に伴い、自立した地域生活が送れるよう、福祉サービスの利用手続きや日常的な金銭管理等の支援を行う、事業の拡充と運営を支える生活支援員の増員を図ります。	利用者 40人 支援員 13人	利用者 40人 支援員 13人	利用者 42人 支援員 14人	利用者 42人 支援員 14人	利用者 43人 支援員 15人																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標達成度</th> <th colspan="2">今後の対応</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者 33人 支援員 13人</td> <td>利用者 33人 支援員 12人</td> <td>利用者 34人 支援員 10人</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">B</td> </tr> </tbody> </table>					実績		目標達成度		今後の対応		利用者 33人 支援員 13人	利用者 33人 支援員 12人	利用者 34人 支援員 10人	B							
実績		目標達成度		今後の対応																		
利用者 33人 支援員 13人	利用者 33人 支援員 12人	利用者 34人 支援員 10人	B																			
法人後見事業 地域住民が安心して成年後見制度を利用して生活できるように、社協が法人として成年後見等を受任して、被成年後見人等の財産管理や身上監護を長期的に支援します。	件数 4件	件数 5件	件数 6件	件数 7件	件数 8件																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標達成度</th> <th colspan="2">今後の対応</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数 6件</td> <td>件数 7件</td> <td>件数 9件</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">A</td> </tr> </tbody> </table>					実績		目標達成度		今後の対応		件数 6件	件数 7件	件数 9件	A							
実績		目標達成度		今後の対応																		
件数 6件	件数 7件	件数 9件	A																			
生活困窮者自立支援事業 生活保護受給者以外の生活困窮者に対し、専門の支援員が相談を受け、個別の支援計画に基づき、行政や関係機関等と連携を図りながら、仕事や生活、住居等の課題解決に向けた継続支援を行います。 また、潜在化しているニーズに対応するため、関係	相談数 50件 プラン数 10件	相談数 55件 プラン数 11件	相談数 60件 プラン数 12件	相談数 65件 プラン数 13件	相談数 70件 プラン数 14件																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標達成度</th> <th colspan="2">今後の対応</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">実施状況</td> </tr> <tr> <td colspan="6"> 広報紙やチラシを通して、関係機関等への周知を行うことにより、相談件数が増加した。新型コロナウイルス感染症の影響により、継続して生活相談をされる方も増えている。今後も関係機関と連携し、国や県、市の利用できる制度へつなげられるよう継続的に支援 </td> </tr> </tbody> </table>					実績		目標達成度		今後の対応		実施状況						広報紙やチラシを通して、関係機関等への周知を行うことにより、相談件数が増加した。新型コロナウイルス感染症の影響により、継続して生活相談をされる方も増えている。今後も関係機関と連携し、国や県、市の利用できる制度へつなげられるよう継続的に支援				
実績		目標達成度		今後の対応																		
実施状況																						
広報紙やチラシを通して、関係機関等への周知を行うことにより、相談件数が増加した。新型コロナウイルス感染症の影響により、継続して生活相談をされる方も増えている。今後も関係機関と連携し、国や県、市の利用できる制度へつなげられるよう継続的に支援																						

<p>機関や住民への周知と現状把握を行い、対応していきます。</p>			<p>を行っていく。</p>
	<p>実績</p>		
<p>相談数 35件 プラン数 7件</p>	<p>相談数 67件 プラン数 8件</p>	<p>相談数 142件 プラン数 16件</p>	<p>目標達成度</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p>
<p>★貧困世帯の子どもに対しての支援 生活に困窮している世帯に対し、子どもが充実した生活が送れるように、食事や学習の支援等を行う各種団体と連携を図り、居場所づくりを新設します。 また、行政や学校、関係機関との情報を共有し、参加しやすい環境づくりと広報活動の充実を努めます。</p>	<p>目標</p>		
<p>居場所 1箇所</p>	<p>居場所 2箇所</p>	<p>居場所 2箇所</p>	<p>市内2カ所の子どもの居場所に対し、県からの助成金等の情報提供を行った。 新型コロナウイルス感染症の影響により開催が難しい状況もあり、今後も市内2か所の子どもの居場所への定期的な訪問活動と情報提供・情報共有を行い、連携していく。</p>
	<p>実績</p>		
<p>居場所 2箇所</p>	<p>居場所 2箇所</p>	<p>居場所 2箇所</p>	<p>目標達成度</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p>
	<p>今後の対応</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">継続</p>		

★障がい者団体との連携		実施状況			
<p>上山市身体障がい者福祉協会や上山市地域総合支援協議会等と連携を図り、各種事業への協力をを行います。</p> <p>また、児童、障がい者、高齢者の関係する機関・団体等で構成する連絡会を開催し、情報交換や事例検討、適正な支援方法等について学ぶ機会を創設します。</p>	連絡会 1回	連絡会 1回	連絡会 2回	連絡会 2回	<p>上山市身体障がい者福祉協会や上山市地域総合支援協議会への事業等への参加や連携を図った。</p> <p>また、市内の法人・企業より、協力を得て上山市社会福祉法人等連絡協議会を結成し、連絡会を開催することができた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮して、連絡会の開催の方法は、会議形式だけでなく、アンケートやチャット作成などによる情報提供なども検討していく。</p>
	実績				
	連絡会 2回	連絡会 1回	実施 なし	連絡会 2回	
目標達成度		A		今後の対応	
				継続	

基本目標2 はぐくむ

基本計画(1) 人づくり

方向性 市民の方々が、ボランティア活動へ興味や関心を持ち、「思いやり」や「いたわり」等の気持ちが芽生え、活動がより活発になるよう、情報発信や学習の場を充実させ、ボランティアの輪を広げていきます。
また、除雪課題に対応できていないため、早急に活動体制を整備する必要があります。

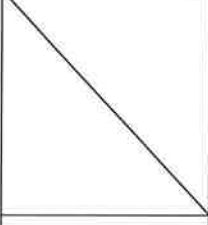
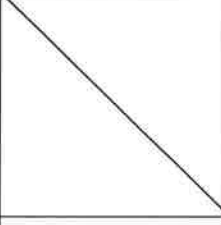
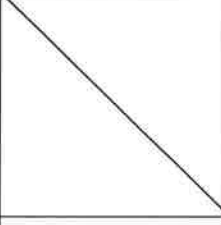
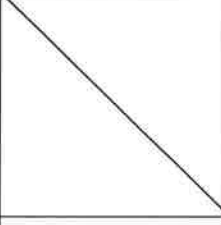
実施計画(各年度の数値目標) ★は新規事業

実施項目	2018				2019				2020				2021				2022				実施状況
	利用数		利用数		利用数		利用数		利用数		利用数		利用数		利用数		利用数				
市民福祉活動支援センター“ふれあい”の機能充実 ボランティア活動を推進するため、担い手と受け手のマッチングを図り、ボランティアのニーズに対応できるようコーディネートの充実を図ります。 また、ボランティア活動の拠点として、研修会の開催や会議室の貸出し、ボランティアやNPO法人に関する情報の収集、発信、相談に対応します。	4,700人		4,800人		4,800人		4,800人		5,000人		5,000人		5,000人		5,000人		5,000人		活動の拠点となるよう、各関係団体等に対し会議室の貸出しを行うことができた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、利用を制限したことから、目標までは至らなかった。今後も感染症防止を考慮した上で、利用制限をした上での貸出となる。		
	3,587人		3,241人		615人		615人		615人		615人		615人		615人		615人		615人		目標達成度 C
ボランティア活動の相談、育成、情報提供 市民のボランティア活動に対する意識や関心が高まるよう、講座や研修の開催、情報提供を積極的に行い、地域や福祉施設等で活動するボランティアの育成と支援を行います。 また、ボランティア活動やグループ立ち上げの相談や支援を行い、ボランティア登録者に、より新鮮な情	30団体		31団体		32団体		33団体		34団体		33団体		33団体		34団体		34団体		個人ボランティア数は増加したが、ボランティア団体数は横ばいである。また、新型コロナウイルス感染症の影響によりボランティア活動の機会が減っており、活動を希望しているが、思うように活動できないケースが多い。新たな活動先の開拓や各関係機関との連携をおこなっていく。		
	75人		80人		85人		90人		95人		95人		95人		95人		95人		95人		実施状況
登録者		登録者		登録者		登録者		登録者		登録者		登録者		登録者		登録者		登録者		目標達成度	今後の対応

<p>報を提供します。</p>	<p>登録者 個人V 57人 団体V 24団体</p>	<p>登録者 個人V 73人 団体V 24団体</p>	<p>登録者 個人V 73人 団体V 25団体</p>	<p>C</p>	<p>継続</p>								
<p>ボランティア団体等とのネットワーク構築と連携 ボランティアの育成や活動を支援するために、ボランティア推進研修会を開催し、ボランティア同士の情報交換や活動実態を的確に把握します。 また、ボランティア団体やNPO法人の交流や学びの場を通して、互いに連携しやすい関係を築くためのネットワークづくりを、インターネット等を通じて情報発信してまいります。</p>	<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>推進研修会参加者 60人</td> <td>推進研修会参加者 70人</td> <td>推進研修会参加者 70人</td> <td>推進研修会参加者 80人</td> </tr> </table> <p>実績</p> <table border="1"> <tr> <td>推進研修会参加者 42人</td> <td>推進研修会実施 なし</td> <td>推進研修会実施 なし</td> <td>推進研修会実施 なし</td> </tr> </table>			推進研修会参加者 60人	推進研修会参加者 70人	推進研修会参加者 70人	推進研修会参加者 80人	推進研修会参加者 42人	推進研修会実施 なし	推進研修会実施 なし	推進研修会実施 なし	<p>実施状況</p> <p>高校生、関係機関、ボランティア等に参加していただき、それぞれの立場で活動について情報交換ができた。今後は、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、インターネット等を利用した情報交換の場や情報発信を検討していく。</p>	<p>目標達成度</p> <p>C</p> <p>今後の対応</p> <p>見直し</p>
推進研修会参加者 60人	推進研修会参加者 70人	推進研修会参加者 70人	推進研修会参加者 80人										
推進研修会参加者 42人	推進研修会実施 なし	推進研修会実施 なし	推進研修会実施 なし										
<p>ボランティアフェスタの開催 より多くの市民が、社会福祉やボランティア活動に関する理解を深め、体験や交流、発表・研修の場としてボランティアフェスタを継続的に開催し、活動の輪を広げていきます。</p>	<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>参加者 600人</td> <td>参加者 650人</td> <td>参加者 650人</td> <td>参加者 700人</td> </tr> </table> <p>実績</p> <table border="1"> <tr> <td>参加者 600人</td> <td>参加者 650人</td> <td>参加者 700人</td> <td>参加者 700人</td> </tr> </table>			参加者 600人	参加者 650人	参加者 650人	参加者 700人	参加者 600人	参加者 650人	参加者 700人	参加者 700人	<p>実施状況</p> <p>継続的な開催により、ボランティア活動やボランティアフェスタの取り組みについて理解が図られた。新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、今後は、従来の形での開催ではなく、違う形でのボランティアフェスタを検討していく。</p>	<p>目標達成度</p> <p>C</p> <p>今後の対応</p> <p>見直し</p>
参加者 600人	参加者 650人	参加者 650人	参加者 700人										
参加者 600人	参加者 650人	参加者 700人	参加者 700人										

	参加者 823人	参加者 650人	実施 なし		A	改善・工夫
ふれあい福祉活動応援事業 ボランティア等の福祉活動団体、地区、企業、その他の団体が行う社会福祉活動や先導的な社会福祉事業等に対し、助成金を交付することにより、共生・共働の福祉のまちづくりを推進します。	2団体	2団体	2団体			
	申請団体なし	申請団体なし	1団体		C	継続
災害ボランティアの育成と情報提供 災害ボランティア養成講座を毎年継続的に開催し、災害ボランティアとして登録を行います。 社協に災害ボランティアの要請等があった場合、災害ボランティア登録者や関係機関団体等に対し、情報提供するとともに、状況に応じて移動手段の確保や資器材の調達などに努め、活動の支援を行います	申請団体なし	申請団体なし	1団体		実績 目標達成度 今後の対応	

実績			目標達成度	今後の対応
参加者 38人 登録者 40人	参加者 51人 登録者 50人	実施 なし 登録者 41人	B	継続
実施状況				
災害ボランティアセンター設置運営研修 上山市の要請により、災害ボランティアセンターを速やかに立ち上げ、スムーズな対応ができるよう、「災害ボランティアセンター設置運営マニュアル」に沿って、市総合防災訓練と合同で、連携したシミュレーション訓練を継続して実施します。 また、関係機関団体と連携・協働を図り、災害協定等の検討を行います。			市総合防災訓練と合同で、災害ボランティアセンター設置運営研修を実施している。各関係機関へ周知をして参加を呼びかけた。また、令和元年5月に上山青年会議所と災害に関する協定を締結することができた。災害時に備え、効果的・効率的な支援活動が行われるよう、連携を図っていく。 今後も、研修を継続して実施し、関係機関と連携を図っていく。	
災害時要援護者支援制度との連携 市で取り組んでいる「災害時要援護者避難支援制度」に基づき、要援護者を把握し、地域の自主防災組織や関係機関と連携して、日常生活における高齢者等の見守り支援活動と災害時の避難支援活動がスムーズに行			市において、上山市災害時要援護者支援制度についての会議等は、現段階での開催の予定はないとのことである。今後とも、市との連携を密にしていく。	継続
実施状況				
災害時要援護者支援制度との連携 市で取り組んでいる「災害時要援護者避難支援制度」に基づき、要援護者を把握し、地域の自主防災組織や関係機関と連携して、日常生活における高齢者等の見守り支援活動と災害時の避難支援活動がスムーズに行			市において、上山市災害時要援護者支援制度についての会議等は、現段階での開催の予定はないとのことである。今後とも、市との連携を密にしていく。	継続
実施状況				
災害時要援護者支援制度との連携 市で取り組んでいる「災害時要援護者避難支援制度」に基づき、要援護者を把握し、地域の自主防災組織や関係機関と連携して、日常生活における高齢者等の見守り支援活動と災害時の避難支援活動がスムーズに行			市において、上山市災害時要援護者支援制度についての会議等は、現段階での開催の予定はないとのことである。今後とも、市との連携を密にしていく。	継続

<p>われるように努めます。</p>	<p>開催 なし</p>	<p>開催 なし</p>	<p>開催 なし</p>		<p>D</p>	<p>見直し</p>					
<p>★除雪ボランティアの体制整備 増加する除雪のニーズに対応するため、行政や各関係機関、ボランティア等と協議を行い、役割分担しながら、ボランティアの確保と活動体制を整備します。 また、活動日を決め、ボランティアを募り、イベント型の除雪活動を実施するとともに、地区で対応できない住民への除雪活動の支援方法について、今後、地区と調整を図りながら進めていきます。</p>	<p>目標</p> <table border="1" data-bbox="411 869 943 1429"> <tr> <td>除雪 1回 参加者 30人</td> <td>除雪 2回 参加者 40人</td> <td>除雪 2回 参加者 50人</td> <td>除雪 3回 参加者 60人</td> <td>除雪 3回 参加者 60人</td> </tr> </table>			除雪 1回 参加者 30人	除雪 2回 参加者 40人	除雪 2回 参加者 50人	除雪 3回 参加者 60人	除雪 3回 参加者 60人	<p>実施状況</p> <p>活動日を定めたイベント型の除雪ボランティア活動を実施し、協力してくれる除雪ボランティアを募集し、登録いただいた。除雪対象者は、地区から希望者を募った。 イベント型は、活動日が定められているため、降雪量や気象状況に左右され、実施が難しい場合がある。また、通常時の除雪体制の整備についての対応まで至っていないため、検討していく。</p>		
除雪 1回 参加者 30人	除雪 2回 参加者 40人	除雪 2回 参加者 50人	除雪 3回 参加者 60人	除雪 3回 参加者 60人							
<p>実績</p> <table border="1" data-bbox="995 1429 1216 2098"> <tr> <td>除雪 1回 参加者 185人</td> <td>暖冬のため 実施 なし</td> <td>除雪 1回 参加者 165人</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">  </td> </tr> </table>				除雪 1回 参加者 185人	暖冬のため 実施 なし	除雪 1回 参加者 165人			<p>目標達成度</p> <p style="font-size: 2em;">B</p>	<p>今後の対応</p> <p style="font-size: 2em;">継続</p>	
除雪 1回 参加者 185人	暖冬のため 実施 なし	除雪 1回 参加者 165人									

基本目標2 はぐくむ

基本計画（2）意識づくり

方向性 福祉活動に対する市民の意識と関心が高まるように、地域や学校と連携を図り、福祉意識を高揚し、共に支え合う地域づくりを推進します。

実施計画（各年度の数値目標） ★は新規事業

実施項目	2018	2019	2020	2021	2022	実施状況
	目標					
学校との連携 福祉学習をより多くの学校で実践できるよう、福祉施設や地域の人材等の活用を図り、学校とカリキュラムなどについて協議しながら、体験授業の充実に努めます。 事前調査を行い、学校と調整を図りながら、福祉学習に取り組む学校数が増加するようPRし、スムーズに実施できるように備品の調達等に努めます。	5校 5学級	6校 6学級	7校 7学級	8校 8学級	9校 9学級	年度初めに、福祉学習の取り組みについての事前調査を行っている。福祉学習への理解を深めるために、福祉学習のプログラム等のPRを行っていく必要がある。 また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、学校教育のカリキュラム自体の変更があり、今後も学校側と話し合いながら進めていく。
	5校 6学級	3校 3学級	2校 3学級			
実績						目標達成度
						C
						今後の対応
						継続

<p>中・高校生介護等体験事業の実施</p> <p>将来の介護や福祉の人材育成につなげるため、中・高校生が福祉施設等で高齢者や障がい者との交流やボランティア活動、介護の実践活動、体験等を通じて、福祉社会への関わり方を学ぶ講座を実施します。</p> <p>なお、より多くの方が参加できるように福祉系大学や関係機関・団体等の協力を得て実技等を行い、内容の充実を図ります。</p>	<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>6回 参加者 100人</td> <td>6回 参加者 110人</td> <td>6回 参加者 110人</td> <td>6回 参加者 120人</td> <td>6回 参加者 120人</td> </tr> </table>				6回 参加者 100人	6回 参加者 110人	6回 参加者 110人	6回 参加者 120人	6回 参加者 120人	<p>実施状況</p> <p>学校側と連携しながら、積極的に広報活動を行い、事業への参加促進に努めた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、学校の力リキユラム変更があり、目標回数で実施することが難しくなっている。今後も、生徒が福祉への理解と関心を深めるために継続して実施していく。</p>
6回 参加者 100人	6回 参加者 110人	6回 参加者 110人	6回 参加者 120人	6回 参加者 120人						
<p>実績</p> <table border="1"> <tr> <td>6回 参加者 107人</td> <td>6回 参加者 103人</td> <td>3回 参加者 88人</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">/</td> </tr> </table>					6回 参加者 107人	6回 参加者 103人	3回 参加者 88人	/		<p>目標達成度</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>今後の対応</p> <p style="text-align: center;">継続</p>
6回 参加者 107人	6回 参加者 103人	3回 参加者 88人	/							
<p>生涯学習と連携した福祉学習の推進</p> <p>高齢者や障がい者等に対する社会福祉制度等をわかりやすく学ぶための研修会を、地域の福祉施設や特別支援学校、医療機関などの協力を得て、公民館と連携して福祉学習を推進します。</p>	<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>公民館 1箇所</td> <td>公民館 1箇所</td> <td>公民館 2箇所</td> <td>公民館 2箇所</td> <td>公民館 3箇所</td> </tr> </table>				公民館 1箇所	公民館 1箇所	公民館 2箇所	公民館 2箇所	公民館 3箇所	<p>実施状況</p> <p>地区公民館への周知が不十分なこともあり、福祉学習への要請がなかった。</p> <p>今後とも、地区公民館へのPRや話し合いを進めていく。</p>
公民館 1箇所	公民館 1箇所	公民館 2箇所	公民館 2箇所	公民館 3箇所						
<p>実績</p> <table border="1"> <tr> <td>要請 なし</td> <td>要請 なし</td> <td>要請 なし</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">/</td> </tr> </table>					要請 なし	要請 なし	要請 なし	/		<p>目標達成度</p> <p style="text-align: center;">C</p> <p>今後の対応</p> <p style="text-align: center;">継続</p>
要請 なし	要請 なし	要請 なし	/							
<p>広報紙の充実</p> <p>地域福祉活動やボランティア活動等への意識や関心が高まっていくような、紙面の内容構成に努め、多くの市民から見ただけだけでなくような広報紙を作成します。（社協だより「ふれあい」、ボランティア広報</p>	<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>広報紙 5回 情報紙 4回</td> <td>広報紙 5回 情報紙 4回</td> <td>広報紙 5回 情報紙 4回</td> <td>広報紙 5回 情報紙 4回</td> <td>広報紙 5回 情報紙 4回</td> </tr> </table>				広報紙 5回 情報紙 4回	広報紙 5回 情報紙 4回	広報紙 5回 情報紙 4回	広報紙 5回 情報紙 4回	広報紙 5回 情報紙 4回	<p>実施状況</p> <p>定期的に広報紙を発行することで、地域福祉活動やボランティア活動に対する住民の意識の高揚に努めることができた。今後ともタイムリーな情報の提供、掲載の見やすさ等を意識して作成していく。</p>
広報紙 5回 情報紙 4回	広報紙 5回 情報紙 4回	広報紙 5回 情報紙 4回	広報紙 5回 情報紙 4回	広報紙 5回 情報紙 4回						

紙「ときめき」) また、定期的に情報紙を発行し、ボランティア登録者や介護予防・生活支援サポーター等へ情報を提供します。	実績			目標達成度	今後の対応	
	広報紙 5回 情報紙 4回	広報紙 5回 情報紙 4回	広報紙 5回 情報紙 4回			
	A			実施状況	継続	
	目標					
ホームページの充実 社協の活動や基本情報、福祉制度等の情報、地域で活動している様々な機関・団体の情報、地域イベント等の情報などを分かりやすく、タイムリーに発信するため、定期的にホームページの内容を更新し、アクセスしやすい、魅力的なホームページの作成に努めます。	アクセス数 4,700 回/年	アクセス数 4,800 回/年	アクセス数 4,900 回/年	アクセス数 4,900 回/年	アクセス数 5,000 回/年	継続
	実績			目標達成度	今後の対応	
	アクセス数 4,393 回/年	アクセス数 4,542 回/年	アクセス数 4,542 回/年			アクセス数 6,064 回/年
	継続			継続		

啓発活動の推進		目標					実施状況		
<p>暮らしに役立つ福祉サービスや、民間事業者等の情報を記載した冊子を作成・配布し、市民の方々に社協の役割等を会議等で周知・説明するとともに、積極的に広報・啓発を推進します。</p> <p>また、ボランティアとして社協の地域福祉事業の推進に尽力された方や、社協に対し寄附をいただき事業の運営に貢献された方に対し、福祉功労者として表彰を行い、これまでの活動の功績を讃えます。</p>		作成準備	300部 配布	300部 配布	400部 配布	500部 配布	<p>地区会長、民生委員等への配布とともに、地区の会議や懇談会等でも資料として活用し、周知を図った。今後も必要な情報の更新などを行うとともに、読みやすい冊子を継続して作成していく。</p> <p>また、福祉功労者に対し、ボランティアフェスタ開催時に表彰式にて表彰を行った。今後も市民の功労をたたえるために継続して実施していく。</p>		
		実績							
		作成準備	384部 配布	305部 配布	A				今後の対応
		作成準備							

基本目標3 つながる

基本計画(1) 活きがいづくり

方向性 少子高齢化や過疎化が急速に進展するほか、一人暮らしの高齢者、高齢者のみ世帯が増加していることから、誰もが気軽に参加できる事業の実施や交流の場の創設、活きがいづくりを推進する必要があります。

実施計画(各年度の数値目標) ★は新規事業

実施項目	2018				2019				2020				2021				2022				実施状況					
	50回		1,000人		50回		1,020人		50回		1,030人		50回		1,040人		50回		1,050人							
<p>温泉サービス事業</p> <p>市内の旅館を会場に、高齢者の介護予防事業の一環として、健康チェックや入浴、会食、お楽しみ会等を通じて、参加者同士のふれあいの場を提供し、健康で活きがいのある生活を支援します。</p> <p>ボランティアの協力を得て、事業内容の充実を図りマンネリ化を防止します。</p>	<p>目標</p>																<p>介護予防を目的とした活動の場を提供することができた。また、催し物の時間帯に協力してくださるボランティアが増え、内容の工夫ができた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、担当者や関係機関等にて開催方法を協議し、半日での開催となった。</p> <p>今後も新型コロナウイルス感染症拡大を考慮しながら状況に合わせた規模展開(事業の縮小や通常事業への拡大)を検討し実施していく。</p>									
<p>実績</p>																<p>50回</p> <p>959人</p>		<p>46回</p> <p>782人</p>	<p>29回</p> <p>261人</p>	<p>目標達成度</p> <p>B</p>				<p>今後の対応</p> <p>継続</p>		

実施状況		目標			
お元氣温泉デイサービス事業 介護予防事業を強化するため、在宅で生活する高齢者を対象に、老人福祉センター寿荘を会場に実施します。 よりきめ細やかな送迎を行い、安全で安心して参加できるようサービスの充実に努めるとともに、民生委員・児童委員の協力を得て参加への働きかけを行います。	民生委員・児童委員等からの協力もあり、また、ワ ンボックスカーによるきめ細かな送迎を実施したこと から、参加者が増加することが出来た。 今後、新型コロナウイルス感染症拡大などを加味し ながら状況に合わせ、通常の事業に戻して実施する。	100回	100回	100回	100回
	1,000人	1,150人	1,200人	1,250人	
目標達成度		実績			
B	改善・工夫	100回	90回	1,032人	991人
		実施なし			
実施状況		目標			
ふれあい食事サービス事業 日常生活に不安のある65歳以上の一人暮らし、日中一人暮らし、高齢者夫婦世帯等に対し、調理ボランティアによる栄養の整った手作りの弁当を、配食ボランティアが高齢者宅に配達し、安否確認と食生活の支援を行います。 また、サービスの周知を図るとともに、事業を支えるボランティアの増員や研修会等を実施します。	食数については、利用者の施設入所や生活上の理由に伴い、増減がある。旬の食材を使用した弁当を作成することができ充実している。また、ボランティアによる安否確認についても機能している。利用者拡大については、福祉課と相談しながらチラシを作成し隣組回覧での広報を行っていく。協力者の拡大についても、ボランティアの方からお知り合いの方へ声かけをお願いするほか、社協広報紙やHP等で募集を行っていく。	週1回 3,200食 協力者 調理V 36人 配食V 20人	週1回 3,250食 協力者 調理V 38人 配食V 22人	週1回 3,300食 協力者 調理V 40人 配食V 24人	週1回 3,300食 協力者 調理V 40人 配食V 24人
	目標達成度		実績		
B	継続	週1回 3,415食 協力者	週1回 2,957食 協力者	週1回 2,971食 協力者	
		目標達成度		今後の対応	

	調理V 35人 配食V 18人	調理V 37人 配食V 19人	調理V 35人 配食V 16人		実施状況 開催日を市内3つの区域に分け、送迎の充実を図った。新規で参加される方もいたが、参加者数は、微減傾向となった。今後、より多くの方が参加できるように内容の充実を図ることとする。	
ふれあい青空教室 日ごろ、外出する機会の少ない一人暮らしの高齢者の社会参加と健康維持を図るため、一日研修旅行を実施します。 また、より多くの方が参加できるよう、福祉バスを利用して自宅近くまで送迎を行い、市内を3つの区域に分けて、同じ内容で実施します。	目標 参加者 70人	参加者 75人	参加者 80人			参加者 85人
	実績 参加者 69人	参加者 67人	実施 なし		目標達成度 C	今後の対応 改善・工夫
まちなかサロンづくりの促進 まちなかでの居場所づくりを推進し、自主的・継続的なサロン活動につなげていくため、高齢者を対象に、いきいき元気クラブカルチャークラスを実施し、多彩なカルチャータッチ型まちなかサロンの育成を図ります。	目標 参加者 1,850人	参加者 1,900人	参加者 1,950人		参加者 2,000人	実施状況 各教室の参加者から、好評を得ており、自主的に継続したサロン活動に結びついている方もいる。 今後、各カルチャークラス教室の内容の検討と、自主的な活動が展開できるよう支援していく。
	実績			目標達成度	今後の対応	

福祉バスの運行 福祉団体の活動や公民館の研修事業等の移動手段として、福祉バスを2台体制で運行し、市民の社会参加及び活きがいづくりの促進を図ります。 また、バスの装備の充実を図るために、市と検討を行います。	参加者 1,376 人	参加者 1,176 人	実施 なし	C	継続				
	目標					実施状況			
	5,600 人/年	5,700 人/年	5,800 人/年				2台体制で運行したが、利用者数は目標に至っていない。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も大きく、バス利用時の人数制限により、全会員が乗車できないことで、利用を控える団体が多かった。 なお、令和3年4月からは、老朽化により、1台(22名乗り)体制となった。		
実績			4,957 人/年	5,362 人/年	1,276 人/年	目標達成度	今後の対応	C	継続

実施状況						
<p>ふれあい・いきいきサロンづくりの促進</p> <p>高齢者等の地域の居場所づくりを促進するため、身近な公民館等に気軽に集い交流する、ふれあい・いきいきサロンの設置促進に努めます。</p> <p>また、内容の充実を図るための講座や、サロンの運営、活動等を支えるサポーター（協力者）の養成を行い、ふれあい・いきいきサロンが市内全地域に広まるよう支援します。</p> <p>男性の参加者を増員するために、新たなスタイルのサロンづくり等を検討していきます。</p>	<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>70 地区 75 か所</td> <td>72 地区 77 か所</td> <td>75 地区 80 か所</td> <td>77 地区 83 か所</td> <td>80 地区 85 か所</td> </tr> </table> <p>単位地区だけではなく、複数の地区等で広域に実施するサロンが増えたことにより、新規のサロン数値目標は達成した。各サロンにおいては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動を自粛・中止していたが、再開したサロンでは、感染防止対策を講じながら開催している。今後は、新型コロナウイルスの状況を踏まえ、新たな生活様式を取り入れながら、活動内容の提案や相談、活動訪問など、各サロンへの支援を行っていく。</p>	70 地区 75 か所	72 地区 77 か所	75 地区 80 か所	77 地区 83 か所	80 地区 85 か所
70 地区 75 か所	72 地区 77 か所	75 地区 80 か所	77 地区 83 か所	80 地区 85 か所		
目標達成度						
<p>実績</p> <table border="1"> <tr> <td>71 地区 79 か所</td> <td>78 地区 93 か所</td> <td>78 地区 90 か所</td> <td>78 地区 90 か所</td> <td></td> </tr> </table>	71 地区 79 か所	78 地区 93 か所	78 地区 90 か所	78 地区 90 か所		<p>今後の対応</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">継続</p>
71 地区 79 か所	78 地区 93 か所	78 地区 90 か所	78 地区 90 か所			

介護保険事業サービス等の充実	目標					実施状況
<p>効率的、効果的かつ適切で、安定した事業の運営に努めるとともに、利用者本位で信頼される質の高い介護サービスを提供いたします。</p> <p>また、社協の独自事業として、制度の狭間にある福祉ニーズに対応するため、介護保険外のサービスを実施します。</p> <p>① 訪問介護事業 ② 訪問入浴介護事業 ③ 居宅介護支援事業 ④ 地域密着型通所介護事業 ⑤ 通所型サービスA事業 ⑥ 地域包括支援センター ⑦ 介護保険外サービス（ふれあい訪問サービス） ⑧ 身体障がい者居宅介護支援事業 ⑨ 共生型サービス事業</p> <p>利用者に対しアンケート調査を実施して、満足度の合いを数値化し、現状を把握するとともに、主観的に評価できる指標として可視化し、サービスの向上に努めます。</p>	満足度 60%	満足度 65%	満足度 70%	満足度 75%	満足度 80%	<p>目標を達成することができたが、「職員の服装や身だしなみ」について、一部の事業所においては、80%を下回っていることもあり、今後改善していく。</p>
	実績					
	満足度 60%以上 の数値	満足度 65%以上 の数値	満足度 70%以上 の数値			<p>A</p> <p>継続</p>

第3次上山市地域福祉活動計画中間評価における講評

東北福祉大学 教授 都築 光一

上山市社会福祉協議会は、第3次上山市地域福祉活動計画（2018年～2022年）を策定し、地域福祉の推進に取り組んでいる。このほど2018年度から2020年度までの前期分の中間評価がなされた。評価結果について、ここに幾つかのコメントを行う。

1. 評価結果

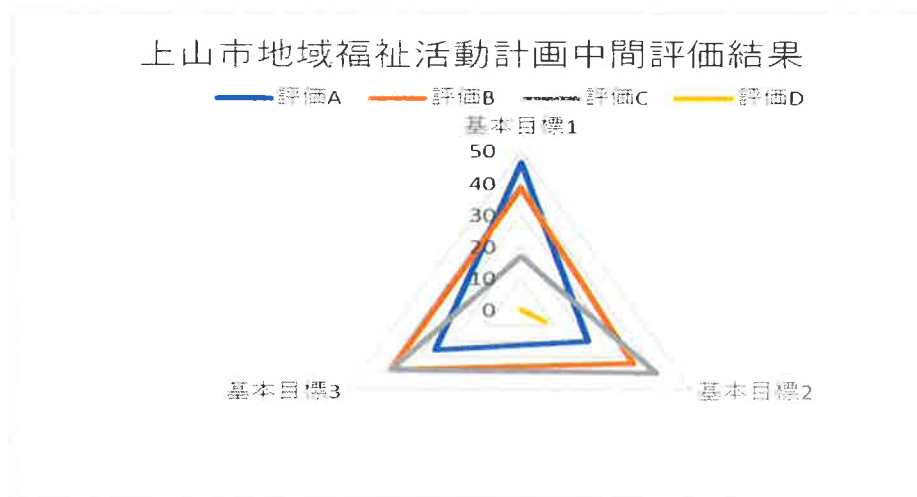
第3次上山市地域福祉活動計画は、大きく3つの基本目標が設定されている。基本目標1「ささえあう」、基本目標2「はぐくむ」、基本目標3「つながる」となっている。

評価結果を見ると、基本目標1「ささえあう」については、評価Aが6項目（46.2%）、評価Bが5項目（38.5%）、評価Cが2項目（16.7%）となり、評価Aの比重が高い。

一方基本目標2「はぐくむ」については、評価Aが3項目（20.0%）、評価Bが5項目（33.3%）、評価Cが6項目（40.0%）、評価Dが1項目（6.7%）となっており、評価Cの比重が高い。

基本項目3「つながる」については、評価Aが2項目（25.0%）、評価Bが3項目（37.5%）、評価Cが3項目（37.5%）となっており、評価が分かれている。

以下、評価結果をグラフに示す。



グラフに見るとおり、基本目標1の評価が高く、個別の事業で見ると地域福祉専門員の設置によるまちづくり事業や貧困世帯の子どもに対する支援や障がい者団体との連携、法人後見事業など、比較的専門的人材による活動に対する評価が高かったことがうかがえる。

これに対して基本目標2については、ボランティアフェスタ、広報紙、啓発活動に限定されており、新型コロナウイルスの感染防止目的の活動制限の影響が顕著となっている。

一方基本目標3については、評価Aがふれあい・いきいきサロンや介護保険事業、評価Bがデイサービス関係、評価Cが自主性を重んじた地域福祉活動に、明確に分かれた。

2. 課題となっている活動

今回の中間評価結果によって、課題とされた活動が幾つかあり、その要員も幾つかに分かれている。

基本目標1では、地区福祉連絡会とたすけあい資金の2項目である。地区福祉連絡会については、福祉協力員の役割の明確化が課題となっており、その課題解決に向けた方向性が、未だ明確になっていないことによる評価結果と受け止められる。たすけあい資金については、新型コロナウイルス対策の制度も動き出しており、その影響もあると考えられる。

基本目標2については、イベント型のボランティアフェスタを除くとほぼ軒並み評価がCとなっている。これは新型コロナウイルスによる影響が大きい。そのほかとしては、学校や公民館と連携した活動に関する評価が厳しかった。これについては教育機関との関係性が疎遠になってきていることが原因ではないかと考えられる。

基本目標3については、住民の主体的な活動に関する評価が厳しい結果となった。住民の主体的活動の評価が厳しかった理由に関しても、新型コロナウイルス感染防止対策の影響によって、住民の行動制限がなされたことによる結果が大きいと思われる。

3. 今後の活動の展望

今回の評価結果において、評価が高かった事項および低かった事項それぞれあるものの、今後に向けては課題を抱えている事項や比較の見通しが見えている事項などが有り、今後の活動展開に向けて、ひいては次期計画に反映できるように取り組んでいく必要があるように思われる。

具体的には、評価が高かった事業項目の中で、基本目標1の地域が取り組む福祉のまちづくり事業と、基本目標2の評価が低かった生涯学習と連携した福祉学習の推進は、いずれも公民館が活動と評価の鍵を握っている。基本目標1では結果を残すことができるにもかかわらず、基本目標2では結果を出せなかった理由は何かを確認する必要があるだろう。また基本目標3にあるように、まちなかサロンは低いものの、ふれあいいきいきサロンは評価が高い。こうした点も、検討が必要となるほか、具体的な取組みにおいては、基本目標1にある地区福祉連絡会の活性化とすることで福祉協力員制度の普及推進と任期の見直し及び役割の明確化が求められよう。

その他多くの項目は、新型コロナウイルス対策によって収束していけば、見通しが見えてくると思われる内容である。ただし災害対策に関しては、取組みについて課題が残されていると思われるので、ポイントを絞って取り組む必要がある。

最後に、上山市は全体として地域性が多様で、地域全体のまとまった評価を得ると言うことは、制度によるもの以外は困難である。それだけにモデル地区を指定したり、地域間交流の推進などの方法で、市内全域への普及推進を図るなどの創意工夫が求められると思われる。

第3次上山市地域福祉活動計画中間評価における講評

社会福祉法人山形県社会福祉協議会

地域福祉部 奥山 伸広

まずは、現状のコロナ禍において地域での活動の制限や、人々が集まることに配慮しながら地域福祉活動を推進せざるを得ない中で、このように第3次上山市地域福祉活動計画中間評価を予定どおり実施し、今後の活動について検討を行った上山市社会福祉協議会へ敬意を表したい。

今回の中間評価は、上山市社会福祉協議会事務局職員による自己評価となっているが、評価作業において一番重要となるのが自己評価であると考えます。評価方法としては他に他者評価、第三者評価などがあるが、組織として内部での自己評価をすることが最初の評価プロセスであり、その内容を上山市社会福祉協議会のようにホームページ等で公表したり、地域福祉懇談会等の会議で報告して地域住民から意見をいただくことで、外部評価も加えた適正な評価へとつながっていく。自己評価ができていないと、外部からの意見や要望、収集した情報などが次の活動へ反映されにくくなる。まず自分たちが組織として活動計画の内容を自己評価し、進捗状況や目標を再確認することで、さらなる発展を目指すことができます。

また、評価の視点として、ともすれば年度事業計画を遂行すればよしとし、いわゆる中長期的な社協活動の展望をすることなくマンネリ的に事業を「こなす」ことを是正すること、社協職員が事業に達成感を覚え、さらに事業推進意欲を高めていくようにすることが活動計画の評価では大切であり、「目標達成度」を「A」から「D」で「見える化」して議論を行う手法も重要なポイントである。さらに、議論の結果についても「今後の対応」で3つに「見える化」していること、5年間の中長期計画であっても計画推進期間途中で柔軟に内容を検討して見直しをしていくという姿勢を示していることが、今回の中間評価の結果により確認できることである。

さて、具体的な中間評価の結果に目を向けると、36項目ある実施項目のうち、ちょうど3分の1にあたる12項目が「一部達成」もしくは「未着手」となっている。項目でいえば、「地区福祉連絡会の活性化」「たすけあい資金の貸付」「市民福祉活動支援センター“ふれあい”の機能充実」「ボランティア活動の相談、育成、情報提供」「ボランティア団体等とのネットワーク構築と連携」「ふれあい福祉活動応援事業」「災害時要援護者支援制度との連携」「学校との連携」「生涯学習と連携した福祉学習の推進」「ふれあい青空教室」「まちなかサロンづくりの促進」「福祉バスの運行」である。

しかしながら、このうち「地区福祉連絡会の活性化」「市民福祉活動支援センター“ふれあい”の機能充実」「ボランティア活動の相談、育成、情報提供」「ボランティア団体等とのネットワーク構築と連携」「学校との連携」「福祉バスの運行」の6項目は、新型コロナウイルス感染症拡大が大いに影響しており、活動自粛や人数制限による対応などを行いながら事業を実施した結果が「一部達成」という結果になっている。コロナ禍での活動推進のためには、どのような工夫や対策が必要となるか、主となる要因が明確で

あるため、引き続きの検討を期待する項目である。

その他の項目で気になるのは、「災害時要援護者支援制度との連携」が「未着手」という目標達成度であり、今後の対応としても「見直し」となっていることである。この項目は、内容を確認する限りでは実施主体が上山市であり、上山市社会福祉協議会は「連携」を重視しているものとなっている。また、「目標」の設定も「委員会開催回数」で目標設定になっており、今回の中間評価では開催がなかったことにより評価が低くなったという結果である。おそらく委員会の開催や災害時要援護者支援制度の取組みは上山市の業務という位置づけであるとすると、上山市の業務推進状況如何によって、上山市社会福祉協議会の自己評価が低くなるのが今後も続く可能性があるといえる。今回の結果にも示されているが、目標の設定や今後の対応をあらためて検討していく必要がある。「連携」という言葉は、時に都合よく使用されるが、具体化することが非常に重要であるとともに計画化するのが難しいものである。どういった連携をどの機関・団体と検討し、どう役割分担していくのか、いわゆる「協働」を仕組みとして構築していくことに今後期待したい。

「たすけあい資金の貸付」や「ふれあい福祉活動応援事業」は、地域住民の生活支援や地域福祉活動の活性化を目的に実施している上山市社会福祉協議会の独自事業である。たすけあい資金の貸付に関しては、現在コロナ禍により全国的に実施されている「生活福祉資金における緊急小口資金等の特例貸付」へ貸付申請が動いている状況があることが目標達成に至らないひとつの要因ともいえるが、制度の狭間となりうる地域住民への支援として、引き続き柔軟な対応が必要である。ふれあい福祉活動応援事業は、これからも地域共生社会の実現に向けて有効な事業だが、やはり申請する団体・企業等がないというのは気になることである。助成金を交付し地域福祉活動を推進していくという資金面での支援制度は、どの支援団体であっても構築できるような事業ではないからこそ、今後も継続してほしい事業である。今回の評価において見えてきた課題として、団体・企業等が申請しやすい制度内容に変更していくことも含めて引き続き検討してはいるかがだろうか。

これまでは目標達成度が低いという自己評価の項目について記述してきたが、36項目のうち24項目は目標を達成もしくは概ね達成しているという評価となっていることについて、あらためて講評しておきたい。コロナ禍というのはもちろんだが、社会情勢の変化によりさまざまな課題が浮き彫りになっており、世帯構成の変化や社会的孤立、8050問題などの他に生活困窮などを抱えた地域住民、世帯が増加している。ひきこもりや自死、こどもの貧困という問題につながっており、ニーズが複雑化・複合化・多様化している状況となっている。

そういった中で、今回の自己評価の結果をみると、個別課題に向き合い支援につなげていく項目である「ふれあい相談事業」「生活福祉資金の貸付」「福祉サービス利用援助事業」「法人後見事業」「生活困窮者自立支援事業」「貧困世帯の子どもに対しての支援」「障がい者団体との連携」のすべての評価が高くなったことは、事業を継続していくうえで重要なポイントであるといえる。今回の計画の中で、上記に記載した項目はすべて

「基本計画（２）支援づくり」に位置付けられている。「支援」とは「支縁（しえん）」であり、「支えたり支えられたりすることで縁を紡ぐ」という意味があると思っている。ただ個別ニーズを解決していただくだけではなく、地域福祉の概念のとおり、時には支えたり、時には支えられたりする関係からつながりを構築していくという視点を大事にしながら、今後も地域での課題解決へ向けた活動を行っていくことが、社会福祉協議会の重要な役割になっていくと考える。

上山市社会福祉協議会では、これまで力を注いできた地区福祉連絡会やボランティア活動、福祉学習（教育）の推進などの地域づくり・人づくりがある。そこに支援づくりが強化されていることによって、今後のさらなる発展につながっていくことが期待できる。また、上山市には 1975 年（昭和 50 年）に組織された中川福祉村という歴史ある福祉の自治推進組織があることも特徴である。第 3 次上山市地域福祉活動計画は 5 年間の中長期計画として策定されているが、今回の中間評価までに、既に新しいニーズに対応すべく実施している事業、例えば社会福祉法人との連携のための協働の場づくりなども計画化して推進していく良い機会であると感じている。今後もさらに積極的な上山市らしい地域福祉の推進に取り組んでいってほしいと願っている。

第3次上山市地域福祉活動計画中間評価報告書

令和3年9月発行

発行者 社会福祉法人 上山市社会福祉協議会

住 所 〒999-3135

山形県上山市南町4番5-12号

電 話 023-695-5095

FAX 023-695-5096